

07

学校での災害対策用
備蓄品採用事例この事例で
考えられる提案先会社・学校・住宅
(マンション等)
店舗

お客様

私立高等学校・中学校 様

お客様が抱えていた課題

備蓄はわずかながら対応はしているものの、大規模な災害に備えた対策は十分とは言えず、考えていく必要があると認識されていました。しかし「**備蓄スペース**」と「**費用**」の問題を抱え、更に**商品導入後の使い方**の啓蒙や、商品管理も危機管理担当者以外にもしっかりと認識をつけていく必要があるため、トータルの提案をして欲しいとのご相談を頂きました。

お客様がはずせないポイント

- 「限られた備蓄スペースのため、出来る限りスペースをとらないこと」と「管理方法」が簡便であること。
- 予算内で必要な防災備蓄品が納められること。

ご採用商品

災害対策用備蓄品（3日分 × 生徒 + 教職員数）

封入袋 / 水 / 食品（アルファ米・パンの缶詰） / 携帯トイレ / 簡易毛布 / 携帯用懐中電灯 / 笛



提案理由

- 代理店様が旅行を通じて、学校様との繋がりは濃く、課題の共有と解決策（案）を導きやすい環境にあった。
- 旅行用品と防災用備蓄品は親和性が高いことから、学校様が希望する商品との取引機会があるケースも多く、スムーズに揃えることができる。
- 事前の課題に対して、解決方法も用いて提案をする段取りができたため。

採用ポイント

- 都道府県が制定している帰宅困難者対策条例の内容に沿って、必須アイテムと必要数の算出を行ない提案を行なった。
- 災害のステージごとに想定されるケースを抽出し、そのケースに落とし込んだアイテム出しと必要性を説明することができた。
- 備蓄スペースは**集中管理が必要なものと個人管理で対応**するもので整理をし確保。管理方法は、学校内で**サイクルストック**を行ない、入学時に購入し、卒業時に返却し、必要数を受給者が負担管理する方法を提案した。
- 商品導入のみの一過性の対応ではなく、代理店様を通じて学校内の啓蒙も意識した、商品を通じた教育の提案も行なうことができた。

営業担当のコメント

- 人の命を守るための非常時の備えという重要な役割の話のため、商品の提案だけでなく、様々なケースをしっかりと勉強した上で提案を行ない、学校様の希望に沿う商品を採用頂くことができうれしく思います。